三鷹市立大沢台小学校　令和8年度【特別の教科　道徳】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・生活経験が少ないため、道徳的価値について自分事として考えることが難しい。 ・全体での話合いにより多様な考え方を知ることはできるが、一人ひとりが自分の考えと比べたり、自分事として深めたりすることにつなげることは難しい。 ・道徳的価値や理想の姿として考えられるが、実生活と結び付けられるように、他教科や普段の生活との関連し継続的に意識させていく必要がある。	**〈指導方法の課題〉** ・主題に対して自分とつなげて考えさせる発問や場面が少ない。 ・教材や友達の考えを自分と結び付けて考えさせることが難しい。 ・学んだことを自分の生活や生き方と結び付けて振り返りをさせる時間が不足しがちである。 **〈授業改善策〉** ・自分事として考えやすくするために、場面絵やICT機器を活用しながら、効果的な教材提示を行い、道徳的価値に迫る授業展開を図る。 ・話合いの前に学習内容を示すことで動機付けをし、多様な考えを知ったり、互いの考えを尊重し合えたりするよう、教員が整理していく。 ◎自分事としての学習の振り返りをしやすくするために、他教科との関連や普段の生活で継続的に意識できるような振り返りや掲示を工夫する。
第2学年	〈成果〉 ・場面絵やICT機器を活用しながら効果的な教材提示を行ったことにより、児童が自分事として考えることができた。 ・授業で考えたことを掲示したことで、普段の生活で継続的に意識して行動できた。 〈課題〉 ・考えたことを言葉にして書いたり伝えたりすることが難しい児童がいる。 ・相手の気持ちを考えることはできるが、発達段階でもまだ自分の思いが強く、自分本位な行動が多く見られる。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・教材の状況理解の面では個人差がある。 ・心情を深く考えることができている児童は多くいるが、自分の行動や生活に結び付けて考えることには個人差がある。 ・多くの児童が自分の考えをよく考えたりもったりすることができるようになった。一方、それを自分なりの言葉で表現することや、自分と違う考えを受け入れ、認め、考えを深められる児童がそれほど多くない。	**〈指導方法の課題〉** ・教材では考えられても、「自分事」として深めさせることが不十分である。 ・知識や理解として捉えているものを実際の生活の中での道徳教育に結び付けていくことが必要である。 **＜授業改善策〉** ・内容項目とその授業のめあてを明確に結び付け、児童がより自分事として捉えられるように、役割演技を取り入れたり、発問を工夫したりする。 ・日常生活での具体的な場面と結び付けて考えることで、自分たちの課題だと意識させることができるようにする。 ・友達の考えをしっかりと聞くことで自分の考えを広げ、自分の意見も相手の意見も大切にできるようにする。また、友達の考えを聞いたあとに自分の考えを再度振り返る時間をつくり、より深く考えられるようにする。
第3学年	〈成果〉 ・自分の考えや思いを書ける児童が増えた。 ・周囲の友達と考えを互いに伝え合う中で、自分の考えと友達の考えを比べながら、様々な意見のよさに気付くことができた。 〈課題〉 ・学習内容と実際の行動とが結び付いていない。 ・題材を自分事として捉えることに個人差がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・物事に対する善悪の判断・区別ができている。 ・題材における主人公の行動や出来事に対して、自分なりの意見をもつことができる。 ・自分と異なる考えを受け入れることができている。 ・学習の振り返りでは、自分の生活と学習内容を結び付け、どのように行動していきたいかを考えることができている。しかし、実践する機会があまりない。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することに抵抗がある児童がいる。 ・相手の意見に対して、異なる意見を発言することに抵抗がある。	**〈指導方法の課題〉** ・児童の生活経験の差から、学習の内容や主題を自分のこととして捉えられない児童がいるまま授業を進めてしまうことがある。 ・学んだことと実践とが結び付いていないと感じることがある。 ・周囲の友達と意見交換が進まない児童がいる。 **〈授業改善策〉** ・題材を提示した後、状況や出来事を簡単に整理したり可視化したりし、内容や主題が多くの児童に理解し自分事と捉えられるようにする。 ◎教材の中で感じたことや考えたことを、実際の場面で自分ができているかを振り返る時間を設けることで、学習内容と自分の生活を結び付けられるようにする。 ・話し合いの際には、自分と友達の考えの差異に気付き、どちらも受容しつつ自己の考えを深めることへの価値付けを行う。 ・様々な考えを取り上げ全体共有することで、発言に対する抵抗を減らしたり、考えの評価をすることで安心感をもたせたりして意見を交流しやすい雰囲気をつくる。
第4学年	〈成果〉 ・グループで自分の考えを伝え合うことで、様々な考えに触れ、深めることができた。 ・ある意見に対する児童の立場を視覚的に分かりやすくすることで、以前に比べ、簡単な議論を行うことができた。 〈課題〉 ・当事者意識をもって学習に取り組むことができていない。 ・自分の考えを全体に発表する児童が固定化されつつある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・教材を通して道徳的価値については理解しているが、生活経験の差もあり、自分事として結び付かない児童もいる。 ・友達と考えを交流し合うことで、自分と異なる考えを認めることはできるが、それを自分の考えを深めるために活用していくことは難しい。	**〈指導方法の課題〉** ・価値項目に対する固定観念ができつつあり、表面的な意見に終始してしまうことがある。 ・教材を使う場面では活発に意見が出るが、自分の生活や生き方を考える段階になると学習が深まっていかないことがある。 ＜**授業改善策〉** ・既存の価値観を揺さぶるような発問を工夫する。 ◎学んだことや考えたことが自分の生活や生き方とどのようにつながっていくのかを振り返り、自分と向き合う時間を十分に確保し、言語化することで、「なりたい自分」、「ありたい自分」を考えさせていく。 ・物語によっては、動作化させるなどして、自分事として結び付けられるようにする。
第5学年	＜成果＞ ・様々な考えが出たときに、意見を受け入れられる児童が増えた。 ・主発問をきちんと設定することで、児童の思考を促すことができた。 ・自分の考えを書くことができる児童が増えた。 ＜課題＞ ・自分の考えを発表することにためらいを感じている児童がいた。 ・児童の思考を促せるような発問を更に考えていく必要がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・自分の考えをもつことはできるが、自分事として深く考えることができる児童とできない児童の差がある。 ・授業の中で主題に対し理解を深めることができたが、実生活の中で生かすことは難しい。	**〈指導方法の課題〉** ・ペアやグループでは意見交流ができるが、自分の考えを全体に発表することにためらいを感じる児童がいた。 ・学習と自分の生活を結び付けられているかを自己評価する場面が少ない。 ・児童の変容を見取るのが難しい。 **〈授業改善策〉** ・発達段階に合わせ、発表だけでなく記述することでも自分と向き合える場と時間を設定する。 ・友達の考えをしっかりと聞くことで自分の考えを広げ、自分の意見も相手の意見も大切にできるようにする。 ・児童が授業で学習する内容を自分の生活と重ね合わせて考えられるように、実生活と結び付ける発問を考える。 ・事前に本時に関する宿題を出すことで、家庭で考えをまとめ授業でさらに深められるようにする。
第6学年	〈成果〉 ・自分の考えを書くことができる児童が増えた。教科書にとどまらず、関連する資料や動画などを示すことで具体的な興味をもち、より自分事として考えを深めていくことができた。 ＜課題＞ ・自分の考えを発表することにためらいを感じている児童がいた。 ・児童の思考を促せるような発問を更に考えていく必要がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・主題に対して、自分の考えをもち、意欲的に話し合いを行っている。学んだことをよりよい生活に生かそうという意欲を高めていくことが必要である。 ・友達の考えを聞くときに、自分の考えと比べたり、自分の考えをより詳しくしたりするなど、対話や交流を自分の考えを広げたり深めたりするために生かすことはまだ難しい。	**〈指導方法の課題〉** ・教材や主題に対する意見交換を、自分事として考えを深めることにつなげる時間が十分にとれていない。 ・児童同士が議論を深めることができるような発問の工夫が必要である。 ・自分を主人公の立場に置いて考えさせる。 ＜**授業改善策〉** ・全体で考えを交流する前に、ペアや小グループで交流し、異なる意見に触れる時間を確保する。 ・ICT機器等を活用し、より具体的な場面や資料などを活用しながら考えを深めていけるようにしていく。 ◎発問を精選し、主題に対して自分事として考えを広げたり深めたりする時間を確保する。